



ENEOS

Confidential

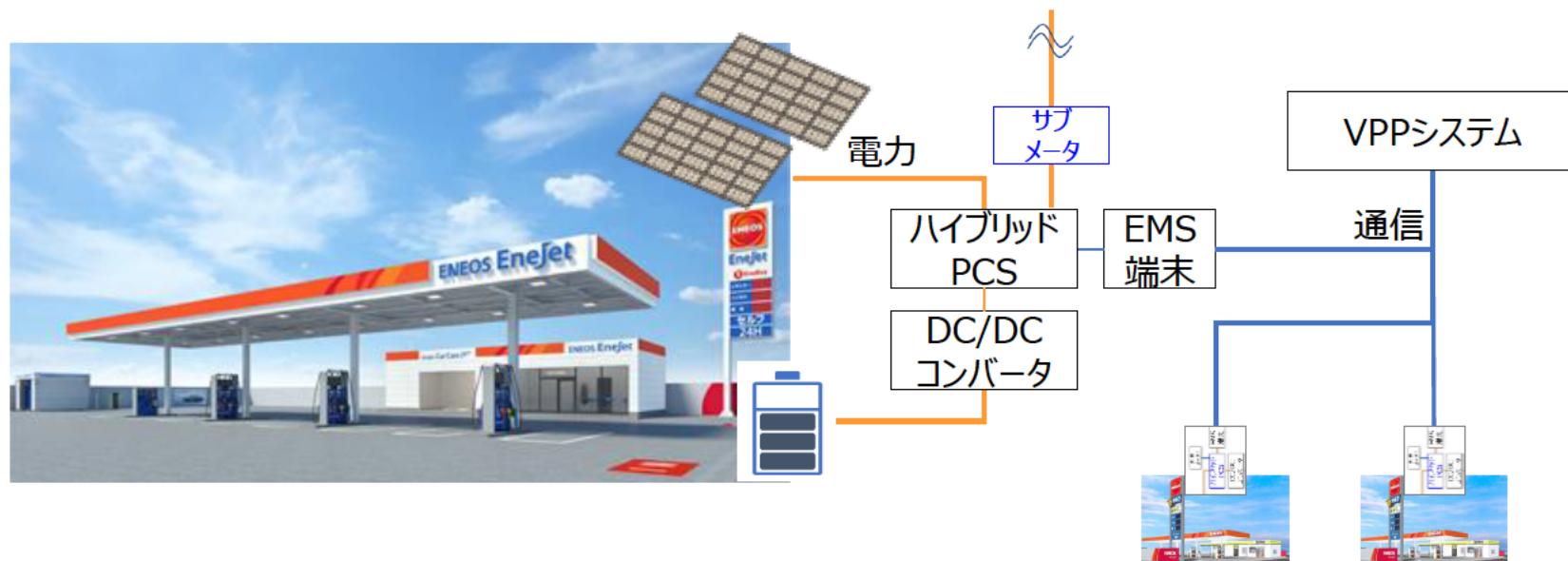
当社取組事例および 次世代スマートメーター・計量制度に関する 課題・要望について

2020年9月29日

1. 当社取組事例について

Confidential

- VPP実証では、当社サービス・ステーションへPV・蓄電池を設置し、自家消費エネマネと調整力供給の両立について検証を進めているところ。この実証では、自家消費量の算出のために、一般送配電事業者が設置したスマートメーターとは別に、計量器（サブメーター）を設置予定。



（事業展開の時間軸について）

VPP・自家消費の事業展開については、需給調整市場の本格的な立上りを視野に入れ検討している一方、2030年以降の再エネ主力電源化の断面においては、小売電気事業者・発電事業者としてのインバランス最適化を目指し実証等を進めている。

2. 次世代スマートメーター・計量制度に関する課題・要望について

Confidential

- 今後、新たな事業モデルを展開していくためには、追加的に設置する機器コストおよび機器導入に関わる手続きコストをいかに低減し、事業採算性を高めるかが肝要と考えており、必要な信頼性・正確性が確保されることは前提となるものの、過剰な負担のない整理としていただきたい。

テーマ	課題	要望
①特定計量/ 差分計量に かかるコスト	第三者所有のPVを設置する需要家においては、自家消費量の算出等を行いたいが、追加的な計量器(サブメーター)設置のコスト負担は大きい。	PCSなどの計測値なども適用可能とするか、あるいは一定の枠組みのなかで、 <u>サブメーターの品質要件を緩和するような措置</u> を検討いただきたい。
②特定計量/ 差分計量の ユースケース	PV・蓄電池・EV等の導入にあたっては、家庭用のみならず、より多くの電力需要を有する業務用電力の需要家への展開も有効であり、計量制度に関わる制約がハードルにならないようにしたい。	特定電気取引に関する計量課題研究会では、特定取引の規模を500kW未満としていくところ、 <u>ユースケースを家庭に限定せず、中小規模事業所・事務所についても検討</u> いただきたい。(取引規模に応じた整理)
③計量器の 計測周期	蓄電池設置時等において、系統連系要件の充足には、DER側の機器追加(CT等)が必要であり、仕様調整に関わる工期・手間、機器コストが発生している。	スマメ計測周期およびBルートの取得周期を <u>系統連系要件で求められる各種継電器と同程度に細かくする措置</u> (または、各種継電機能の内蔵)を検討いただきたい。
④検針データの 持ち方	受電点下に、EV充電器や各種サブメーターなど、様々な電力設備が接続することになるが、それらの検針データを別々に保持できない。	<u>供給地点特定番号ごとに検針データ数を拡張可能に設計</u> することを検討いただきたい。